



もののはずみでダンゴムシ協会

宮里 和則

「こんにちは、日本ダンゴムシ協会の宮里です」

最近はどうあいさつすることが多くなった。

日本ダンゴムシ協会は、ダンゴムシで遊ぼう、

レースをしようという協会である。

おかげさまで色々なところに取り上げられ、知られることとなったダンゴムシ協会だが、その誕生はまさに「もののはずみ」だった。

私は別に筋足動物の研究者でもマニアでもない。

私は児童館の職員。どちらかといえば、虫などに夢中になっている子どもが好きなのだ。

ダンゴムシ協会を立ち上げたのは、一九九六年春。新しく赴任した児童センターで土が嫌いだという子どもたちに出会った。確かに今の都市生活は、土を嫌う。マンションの階段に土が持ち込まれた



そこでレース前にダンゴムシツアー（ダンゴムシさがし）をすることになった。これもはずみだった。がツアーに出かけてみると、これは大変面白いものだとなかった。

まずダンゴムシ好きの子どもたちが、自分の秘密の場所を次々に紹介してくれる。ふだん児童館ではボール遊びしかしない子がこんな生活（遊び？）をしていたんだと改めてその子を見直したり……。私にとつて子ども再発見の時となった。

そしてたくさん街の人と話す機会になったということ。ダンゴムシのいそうなプランターやトク箱を見つけると、持ち主を捜し出し、「すみません。ダンゴムシさがしているんですが……。この植木鉢動かしても良いでしょうか？」と尋ねる。初めはビックリしていた人も、笑ってOKしてくれる。「今の子どももダンゴムシで遊ぶんですか」「懐かしいなあ……」。

これには二つ良いことがあった。一つはダンゴムシが捕れること。そして二つ目は、次に会った時にお礼が言えること。街の人とつながることが少ない都市の子どもにとつてこれはとても大切なことだった。

そして、何といつてもダンゴムシさがしは、くじ引きと同じ様な面白さがあった。この石の下にいうだと思つて持ち上げてみると、ア리가びっしりいて「きゃー」となったり、まだ眠っているカエルにあつてしまつたり……。そして、ようやく見つけた時の大喜び……。

さてこんなツアーを終えて帰つてくると……。思いがけず七十人もの人が集まつてきたのだ。

ダンゴムシやその仲間たちが土を作っていることや、どんな生き物にもその役割があることなどを話し、レースを始めることにした。

レースは二重円を書いてそのまん中にダンゴムシ



追伸…今日本ダンゴムシ協会ではダンゴムシの事件簿を募集中です。ダンゴムシにまつわる事件、面白

いエピソードがありましたら、ぜひお知らせください。

はなまるエピソード、ポンポーン

すとうあさえ

夫「きょうは、だれと遊んだの？」

私「かずちゃん、しんべい君」

夫「えっ、でも、かずちゃんとしんべい君は気があ
わないだろう」

私「そうよ。だから、この子は大変だったのよ。か

ずちゃんと少し遊んだら、今度はしんべい君って
いう感じで、大いそがしよ。毎度のことだけど
ね」